

みなさん、こんにちは！小松茂則です(^^)
今週のモエル塾通信をお届けします。

テーマは

【部下が話しかけてこないのは、あなたのせいかもしれない】

今回のモエル塾通信は、かつての後輩との経験をXに投稿した記事を共有させていただきます。

「なんでもっと早く相談しないんだ」
そう言ったあと、部下はうつむいたまま黙ってしまう。

でも、心の中ではこう思っていたのかもしれませんが。
「忙しそうだったので…」
「怒られそうで…」

本当は、何度も様子をうかがっていたのかもしれませんが。
けれど、そのときのあなたの表情や態度のせいで、
声をかけるのをやめてしまった可能性もあります。

「困ったら声かけて」と伝えているのに、誰も来ない。
それは、言葉が届いていないのではなく、
気にかけてもらえていないと感じていたのかもしれませんが。

険しい表情、ため息、強い視線。
そのひとつひとつが、「今はやめておこう」と思わせてしまうことがあります。

でも、あなた自身にはそんなつもりはなかったはずです。
むしろ「気にしていたつもり」「見守っていたつもり」。
それでも、伝わらないことがあるのが人間関係の難しさです。

気をつかえる人だけが話しかけられる――
そんな職場になっていないでしょうか。

でも本来、相談や報告は、遠慮して言うものではありません。
距離を感じたまま日々が過ぎれば、声は減っていき、
やがて会話そのものがなくなっていきます。

一方で、信頼される上司は、
「今、話しかけても大丈夫そう」と感じさせるやわらかさを持っています。
それは、言葉よりも表情や声のトーン、ちょっとした視線にあらわれるもので、

相手を気にかける気持ちが自然とにじみ出ているのです。

声をかけやすい環境というのは、
特別な仕組みや制度でつくるものではありません。
日々のなかで、部下の表情やちょっとした変化に気づこうとする姿勢——
それこそが、気にかけることの積み重ねで生まれていきます。

「いつでもどうぞ」と言葉で伝えるだけでは足りません。
「今、話しかけても大丈夫そう」と思ってもらえるかどうかは、
そのときのあなたの表情や態度によって、そっと決まるものです。

だから、今日からできることがあります。
机に鏡を置いてみてください。

ふと鏡を見たとき、
「今ちょっと険しい顔をしてたな」
「ちゃんと見ようとしてたかな」
そんな小さな気づきが生まれます。

険しい顔つきは、自分では気づきにくいもの。
でもそのせいで、部下の声を逃していたとしたら
少し、もったいない気がしませんか。

「うちの部下、何も言ってこない」
そう感じたときは、
最近、自分がどれくらい気にかけていたかを思い返してみてください。

“話しかけにくさ”は、気づかないうちににじみ出るものです。
でも、あなたの表情が少しやわらかくなるだけで、関係は変わっていきます。

部下は、あなたの様子を見ています。
今、話しかけてもいいか。ちゃんと聞いてもらえるか。
その判断は、言葉よりも、あなたの姿勢やまなざしで決まります。

だから、ほんの少しでかまいません。
一日のなかで誰かに目を向ける時間を持ってみてください。

これは、部下との関係だけに限った話ではありません。

もしかしたら家族も、友人も、あなたの様子を見ながら、

「今はやめておこう」と思っていた瞬間があったかもしれません。

「ちゃんと見てくれてる」

「気にしてくれてる」

そんなふうに思えると、人は少しだけ前を向けます。

今日、あなたは誰かに気にかける時間を持てましたか？

もしまだなら

明日、ひとつだけでも。

小さな気づきを、誰かに向けてみてください。